シールド機動力学モデルによる 東京層(粘性土)における現場実測データのシミュレーション

長岡技術科学大学 ○Sramoon A. 正会員 杉本光隆 向直樹 清野智久 佐藤・鴻池・大豊 J V 正会員 松本直樹

<u>1.はじめに</u>

現在、シールドマシンの制御・操作は自動掘進シ ステムにより行われている。しかし、シールド掘削 に関連する地盤物性値やシールドマシンに作用する 外力、およびその挙動については未解明な点が多く、 これらの問題点を解決するためには、シールドマシ ンの作用力が力学的釣り合い条件を満たすよう、シ ールドマシンの挙動・掘進条件を考慮できるシール ド機動力学モデルの確立が必要である。

本研究では、洪積粘性土層におけるシールド機挙 動の、実測値と動力学モデル¹⁾による計算値とを比 較することにより、本モデルの妥当性を検証するこ とを目的とする。

2.解析方法

解析手順は以下のとおりである。

- 1)経験値等を基にした地盤物性値とマシン制御力に よるシールド機挙動予測
- 2)1)で求められたシールド機挙動計算値と実測値を 比較し、動力学モデルの合理性を検証

<u>3.解析データ</u>

解析に用いた実測データは、土被り 10.7~13.4m, 地下水位以下 4.5~9.2m にマシン外径 7.26m の泥水 式シールドで掘削された臨海副都心線第一広町トン ネルの上り勾配 19.05‰~下り勾配 23.00‰の変化点 に位置する。地質縦断図を図-1 に示す。掘進地盤は、 洪積層に属する東京層粘性土であり、シルトを主体 とし、N値は 7~10 である。また、解析に使用した 入力物性値を表-1 に示す。

<u>4.解析結果</u>

解析は、118Ring~157Ring(10k955~10k908m)にお いて行なった。解析結果を図-2~図-5 に、作用力一 覧を表-2 に示す。図-2 より、ヨーイング角(*φ*_y)(右回 り:正)は約 428 分程左向きに変化し、左カーブしてい ること、ピッチング角(*φ*_p)(下向き:正)は約 16 分程下 向きに変化し、トンネルが上向きから下向きに変化 していること、ジャッキ速度(*Vs*)は 143Ring~154Ring で 0.01m/min となっていることがわかる。また、図-4 より、マシンの上側と下側の地盤変位は、コピーカ ッターの使用領域を表していて,マシン左側でのコ ピーカッター使用状況を反映していることがわかる。 図-5 より、カーブ外側のシールド先端、テール部を 除き、土圧が一定となっていることがわかる。これ らの図から、ピッチング角の計算値と実測値との間 に最大 28 分程度の差が見られたものの、シールド機 動力学モデルによるシールド機挙動は、実際のシー ルド機挙動と概ね一致していることがわかる。

<u>5.まとめ</u>

- シールド機動力学モデルによるシールド機挙動 は、ピッチング角が若干シフトしていることを 除くと、実際のシールド機挙動と良く一致して いる。
- ピッチング角の誤差については、以下のように 考えられる。
- ・コピーカッター使用領域の変化
- ・地盤の変化による地盤反力係数,余掘り有効率, コピーカッター有効率の変化

<u>参考文献</u>

 1)杉本光隆・サラムーン アピチャート:施工実績に 基づくシールド機動力学モデルの開発,土木学会 論文集, No.673/III-54, 2001.

表-1 地盤物性値

地層名	K _{H0}	k_H (MN/m ³)	c_{ms} (MN/m ²)	а	b
Dc3	0.756	28.58	22.50	30.4	1

キーワード:シールド機,シミュレーション,動力学モデル,現場実測データ,洪積粘性土層 連絡先:〒940-2136 新潟県長岡市上富岡1603-1 長岡技術科学大学建設系 TEL:0258-46-6000 FAX:0258-47-9600



(Distance 157.201m)